

理療科教員養成施設

1 理療科教員養成施設の活動

(1) 教育活動

- ① 学生数：施設学生1年生24名, 2年生23名, 臨床専攻生2名, 理療研修生10名であった。
- ② 学生生活への配慮：学生47名のうち寄宿舎入居希望者は15名おり（男子8名, 女子7名）, 附属盲学校と共用の寄宿舎に15名入舎した。
- ③ カリキュラム編成：実習関連科目（解剖学実習, 体育実習, 理療実験実習）の内容整理・充実を図った。
- ④ 教育指導のあり方：点字資料, 立体コピーなどの学生教材の充実や音声ワープロや点字プリンタを用いた情報処理の授業を充実させているが, 設備面において未だ不十分な点がある。
- ⑤ 教授方法の工夫及び研究：学生用のコンピュータなど新型機種を導入し, 教材等補充設備した。また, 東京キャンパスと筑波キャンパスを結ぶSCSが平成10年度に開局し, これを利用した沿革授業実施が期待される。
- ⑥ 成績評価, 単位認定：実習や円周などの授業は複数の教官により合同評価した。
- ⑦ 卒業生の進路状況：卒業生23名の内, 教諭として公立盲学校へ16名・専門学校へ3名・国立視力障害センターへ1名が就職し, 3名が進学等した。

(2) 理療臨床活動

平成15年度の患者数は, 新患337名, 年間のべ人数6,813名であった。

理療臨床部では患者の治療を行うことを目的としているが, 施設学生の実技教育を行うと共に卒後臨床教育として盲学校・専門学校からの理療研修生を受け入れ, 臨床教育を行っている。

(3) 研究活動

鍼治療及び手技療法の研究を中心に, 鍼灸の安全性, スポーツ外傷障害, 低周波鍼通電療法などに関する研究を, 原書9件, 著者又は総説等30件を報告している。

(4) 社会と連携

- ・ 文部科学省共催盲学校理療科担当教員講習会 7月22日～7月25日（参加者104名）
- ・ 盲学校理療科教員免許法認定講習 7月15日～7月18日（参加者48名）
- ・ 公開講座「健康と東洋医学」
9月～11月中 6回（毎月曜 18:30～20:30）（参加者42名）
- ・ 施設見学 20回 盲学校理療科, 専門学校等

2 自己評価と課題

5名（臨床医学系1名, 心身障害学系4名）の教官が専任で教育にあたったが, 授業を行うためには約67名の非常勤講師が必要であり, カリキュラム編成を行う上で支障を来している状況が続いている。

数年来, 盲学校理療科からの教員の養成のあり方をふまえた上での当施設の将来計画を検討中であり, 概算要求として定員増の要求も行っている。

計算物理学研究センター

1 計算物理学研究センターの活動

平成15年度は, 平成16年度の法人化を控え, センターの組織体制を大きく見直す一年となった。即ち, 本センターを核として幅広く計算科学の研究を実施する「計算科学研究センター」を新設する概算要求が進められ, 平成15年12月決定の政府予算案で認められて, 平成16年4月には新センター発足の運びとなっている。

この一方で研究活動は, 従来からの方式に沿い, センター研究員会議（センター勤務教官と共同研究員をメンバーとし毎月一回開催）及び運営委員会（センター勤務教官と学内関係組織の教官を委員とし, 隔月一回開催）